

授業科目 ソーシャルワーク 実践理論	科目概要・形式 1単位 15時間(8コマ) 講義科目	配当年次 博士前期・1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> ・不可 (下記7も参照)
科目責任者	小山 幸		
担当者	小山 幸		
1. 科目のねらい・目標			
<p>ねらい：マイクロからマクロ領域のソーシャルワーク実践を支える理論やモデルに関する議論の動向を把握し、実践現場におけるソーシャルワークの理論化を目指す方法について理解できる。</p> <p>目標：実証主義および構成主義のそれぞれに関連づく主要なソーシャルワークの理論やモデルの概要と課題を整理できるようになる。また実践の可視化に関する議論の動向を理解し、考察できるようになる。</p>			
2. 授業計画・内容			
<p>第1回 オリエンテーション、ソーシャルワーク実践理論 総論(1)</p> <p>第2回 ソーシャルワーク実践理論 総論(2)</p> <p>第3回 ミクロレベルにおけるソーシャルワーク実践理論(1)</p> <p>第4回 ミクロレベルにおけるソーシャルワーク実践理論(2)</p> <p>第5回 メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践理論(1)</p> <p>第6回 メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践理論(2)</p> <p>第7回 ソーシャルワーク実践理論の活用と検証(1)</p> <p>第8回 ソーシャルワーク実践理論の活用と検証(2)、まとめ</p>			
3. 教科書、参考書			
<p>(教科書) 特になし。</p> <p>(参考書)</p> <p>平塚良子・小山隆・加藤博史 編 (2016) 『ソーシャルワークの理論と実践 - その循環的發展を目指して - 』中央法規。</p> <p>Francis, J.T. eds (2017) Social Work Treatment: Interlocking Theoretical Approaches (6th edition), Oxford University Press.</p> <p>Matthew, B (2018) How to Resist: Turn Protest to Power, Bloomsbury Publishing.</p>			
4. 成績評価方法			
講義での報告・討議(40%)、講義への参加度(10%)、最終レポート(50%)			
5. 受講要件			
特になし。			
6. 社会人学生に対する配慮			
適宜、オンラインでの講義実施、夜間開講などを行います。			
7. その他			
オンデマンドでの講義は実施しません。			